－ 大学での探究型人材育成への産業界からの期待 －

今、若者が大学で学ぶべきこと

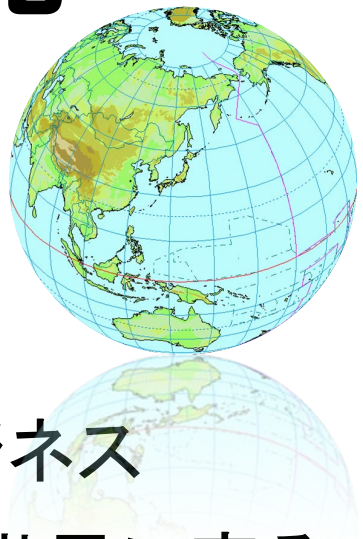
博林陽一
神戸大学連携創造本部

最近の技術系新入社員の特徴に関するアンケート調査

- 数学、物理、化学、生物、語学などの基礎学力不足
- 解決すべき課題を発見できない
- 解決課題を論理的にテーマ化して提起する提案能力の欠如
- 独創性の不足
- 目的意識の欠如、
- 意欲の低下傾向、
- コミュニケーション力不足
- 専門領域周辺の知己の狭さ
- 外国と日本の博士課程の学生を一緒に議論させると日本の学生は存在感が大変薄い
- 同じ期間勉強してきたわりには日本の学生は知識が浅い
- 自分と少し違う分野の研究者と全くと言ってよいほど議論ができない
- 自分の守備範囲を確立してそこから出て行こうとしない

（味の素(株)　山野井昭雄
日本経団連産学官連携推進部会報告書より引用

産業界を取り巻く環境変化



グローバリゼーションの変遷

1990年頃まで:

日本を舞台にした「ものづくり」ビジネス

アメリカが創って、日本で造って、世界に売る

1990年以降:

世界を舞台にした知的創造ビジネス

日本で創って、外国で造って、世界に売る

⇒産業界が必要とする人材像は大きく変化

変わるもの、変わらないもの

変わるもの

政治、経済、産業、文化、etc
“The only constant is change”

変わらないもの

全ては“人”
結局、物事はすべからく“人”が執り行うということ

行動能力の欠如

行動能力（コンピテンシー）：能力を成果に変える翻訳機

- ◆ 論理的思考力
- ◆ 基礎学力
- ◆ 専門知識
- ◆ 知識としての語学

- ◆ 意欲・目的意識
- ◆ コミュニケーション力
- ◆ リーダーシップ
- ◆ 道具としての語学力
- ◆ 学際融合能力
- ◆ 個性

- ◆ セールス￥€＄
- ◆ 新製品・新サービス
- ◆ 研究開発
- ◆ ネットワーク
- ◆ チーム・組織
- ◆ 管理・人材育成

グローバルコミュニケーション力

- 日本人としての誇りをもって、
- 何処（どんな国）へ行っても、
- 誰（外国人）とでも、
- 自分の考えを上手に伝え、
- 相手の考えを正確に理解できる

試されるのは教養、品格、知性

- 多様性を受け止める力：特に価値観
- コミュニケーションを楽しむ余裕
- 科学技術、政治、経済、芸術、歴史、etc
- 議論する“勇気”
- 道具としての英語力：読、書、聞、話

道具としての英語力

英語を学ぶ

英語で学ぶ

英語で考える

英語を使って働く

⇒心構えが一番大事

素晴らしい国、日本

- 優しさ、気配り、
- 世界最高レベルの相互信頼関係
- 他人の意見や主張を尊重する心
- 品質に対するこだわり、設定目標値の高さ
- モノを大切にする心
- 「ヒトに優しい」企業風土
- 長期的な視野にたって物を考える
- 粘り強く物事に取り組む姿勢

大学教育の現実と期待

現在の大学教育は基礎学力および専門教育に偏重

とにかく単位を取らせる、学位を取らせる

グローバル人材育成に向けた教育効果は極めて低い

行動能力教育の導入が喫緊の課題

キャリア教育

個人の就職対策ではない

「個人の幸せ」と「国の未来」のための教育

動機づけのための教育プログラム

何のために学ぶのか

どのようにして学べば良いか

大学生になってからでは遅い

近い将来の日本の若者たちのライバル

近い将来、20代―30代の日本人が対峙するライバル達は

文系では修士、理系では博士の学位を持ち、

科学技術や社会科学に関する幅広い知識を蓄え、

英語を流暢に話し、

高いコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を備えた、

アジア系の国際人材が競争相手となる

大学教育はどう変わるべきか

大学教員の意識改革

教授全国で66,785人（ 21,861人 ）

誰のために、何のために教育・研究を行っているのかの自覚

学生個人のキャリア形成と社会の発展へのコミットメント

産学連携による教育プログラムの導入拡大

世界標準の行動能力教育とキャリア教育

産業界の人材を教育リソースとして活用

文系 vs. 理系

分別教育の弊害

個人のキャリア形成、社会ニーズへの適合

神戸大学の取り組み

連携創造本部とキャリアセンターのコラボレーション

[企業社会論]

社会に学び、イノベーションとキャリア形成を考える

オリエンテーション

2012年度教養原論 U749
2010年4月14日
@K202
【時間割コード】前期U211(副:前期U749)

企業社会論の構成

- 日本を代表する企業等で活躍されている外部講師
- 主要産業(含外資系企業・国家公務員・地方公務員)
- 講師のキャリアを通して、企業社界の実際を知る
  - 社会の何処で、誰を相手に、どのようなことをして、利益を得ているのか。
  - 各産業セクターの課題と将来展望
  - 期待される人材像
- 複雑でダイナミックな実社会に関する理解を深める
- 企業説明会や面接指導ではない

企業社会論で学ぶ四つのポイント

1. 世の中の変化
2. キャリアの多様性
3. 行動能力の重要性
4. 選択の力

成績評価

1. 出席 (35%)
   欠席1回につき5点減点
2. コミュニケーションシート (35%)
   未提出1回につき5点減点
3. Q&Aセッションへの参加 (15%)
   15回の講義中に1回も質問できなければ15点減点
4. 期末レポート (15%)
   提出必須

企業社会論の目的

動機付け教育

- 企業社会の実態⇒職業意識の醸成
- 一生学び続けることの大切さと楽しさ
- 「夢」と「志」と「キャリア形成」の多様性
- 大学生のうちに何を学び、どんなことを経験しておくことが必要か

平成24年度受講者数

- 希望者約450名から120名を選抜
- 毎回150－200名の受講者